

実戦トライアル

B 第 1 回

国語

- 注意：1. この問題用紙は、先生の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答欄は、この用紙の裏面です。答えは、すべてこの解答欄に記入下さい。
3. 先生の「やめ」の合図があったら、指示に従って解答欄のあるこの用紙だけを提出下さい。

国語 B 第1回 解答用紙

1													
(8)			(7)	(6)	(5)	(2)	(1)						
<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">13</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">12</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">10</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">50</div>			<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">12</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">10</div>	<div style="text-align: center;">あ</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">10</div>	珠寶さんの話を聞いて、それぞれの草木が、 ということに心が引かれたから。	ねて やか	<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">6</div>	<div style="text-align: center;">E</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">5</div>	<div style="text-align: center;">A</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">1</div>	をしている	<div style="text-align: center;">B</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">2</div>	<div style="text-align: center;">C</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">3</div>	<div style="text-align: center;">D</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">4</div>
			<div style="text-align: center;">(3)</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">7</div>	<div style="text-align: center;">(4)</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">8</div>			<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">9</div>						
			<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">11</div>	<div style="text-align: center;">い</div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">11</div>									

クラス	
番号	
氏名	
性別	男 女
総得点	/ 100

①(4)(6)(7) 4点×4
 (5)(8) 8点×2

①	/ 32
---	------

②(1)~(3) 2点×7

②	/ 14
---	------

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) 線④～⑤について、漢字は読み方をひらがなで、かたかなは漢字に直して書きなさい。

(2) 線 a 「抽象」の対義語を、漢字で書いて答えなさい。

(3) 線 b 「ぬくぬくと」と c 「育った」の文節どうしの関係として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主語・述語の関係

イ 修飾・被修飾の関係

ウ 並立(対等)の関係

エ 補助の関係

(4) 線①「思わず自分の背筋も伸びる」とありますが、筆者がこのようになった理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 珠寶さんが献花に礼儀正しく臨む姿を見て、気持ちしがらみだから。

イ 珠寶さんの献花が始まるのに、場が騒がしかったことを恥じたから。

ウ 珠寶さんの一礼を機に場の雰囲気が変わり、自分も緊張を感じたから。

エ 珠寶さんの一礼で空気がひきしまることに、気味悪さを覚えたから。

(5) 線②「おもしろい」とありますが、筆者がこのように感じた理由について説明した次の文の に入ることばを、十字以内(読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

〈珠寶さんの話を聞いて、それぞれの草木が、をして
いるということに心が引かれたから。〉

〈齋藤亜矢「ルビンのツボ」より〉

(注) エッセンス⇨物事の重要な部分。本質。

クレール⇨スイスの画家。

珠寶⇨著名な華道家。

(6) ー線③「幸福な非力感」とありますが、この表現について話し合った次の対話の□に入ることばを、**あ**は十三字、**い**は四字で、それぞれ本文中から書き抜いて答えなさい。

Xさん どうして筆者は、ちっぽけであることを「幸福な非力感」と表現したのかな。

Yさん ここでの「非力」とは、自然に対して、**あ**ことを意味していると思うけれど、筆者が感じている「非力感」というのは、自分の存在価値を否定するようなネガティブな感情ではないと述べているね。

Xさん そうだね。筆者は、自分の既成概念をはるかに超えたものに感服し、そのような自然に**い**を感じるかと述べているね。だから、自然に対して謙虚に向き合う気持ちを込めて、自分のちっぽけさを感じることを「非力感」と表現したのかもしれないね。

Yさん 自然の雄大さや美しさを感じることはできるのは、自分がちっぽけだからなんだね。そのちっぽけな自分が、大きな存在である自然の一部分になっている。そのことを幸福だと感じたから、筆者は「幸福な非力感」と表現したのだろうね。

(7) ー線④「対比的なものとして感じてしまう」とありますが、「自然と人工」をそのように感じてしまうのはなぜだと筆者は考えていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 動物である人間は自然と一体なはずなのに、圧倒的な存在である自然を前にすると、挑んで克服しようという感覚になるから。

イ 人間は自然からの情報をもとに行動しようとするのに、壮大な自然

に対しては、情報を全く読みとれないような感覚になるから。

ウ 人間は自然に含まれて存在しているのに、人知を超えた自然と向き合うと、自分の存在価値が否定されているような感覚になるから。

エ 人間も自然の一部であるのに、既成概念では捉えきれない自然に接すると、人間と同じ領域にあるとは思えないという感覚になるから。

(8) 本文中において、自然の美しさを表現するとはどうすることだと筆者は述べていますか。表現をする側の自然に対する向き合い方に触れながら、五十文字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈寺地はるな「水を縫う」より〉

(注) 刺繡＝針と糸で布に模様や絵を表すこと。

高杉晋作＝長州藩の志士。幕末に活躍したが、二十七歳の若さで病死した。

某＝名前を出さないで人を指す語。

柴犬、ナポリタン・マステイフ、ポメラニアン＝犬の種類。

(1) ――線ア～エについて、①他の三つと品詞の異なる語を一つ選び、記号で答え、また、②その語の品詞名を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 名詞 イ 連体詞 ウ 形容詞
エ 形容動詞 オ 副詞

(2) ――線①「だいじょうぶ。慣れてるし」とありますが、この時の「キヨくん」の心情の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 際立った個性を異質なものとして侮るあなづ集団に、刺繡を趣味にして
いることを受け入れてもらえないのは仕方ないことだと考えている。

イ 自分以上につらい経験をしてきたにもかかわらず、自分のことを心配してくれる「くるみ」を悲しませないように平静を装っている。

ウ 自分に優しい言葉を掛けてくれた「くるみ」に対する感謝の気持ちを、うまく伝えることができないことにもどかしさを感じている。

エ 祖母に教えてもらった刺繡をばかにする級友たちを、犬や鳥といった動物にたとえることで、込み上げてくる怒りを抑え込んでいる。

(3) ――線②「しげしげと観察しはじめた」とありますが、「しげしげ」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 何となく漠然と眺めるさま

イ 目をこらしてよく見るさま

ウ いとおしい眼差しまなざしを送るさま

エ 客観的な視点で分析するさま

(4) —線③「ほんまにきれいなんねんで、と言う頬がかすかに上気している」とありますが、ここでの「くるみ」の様子の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 石を磨けばきれいになるということを疑う「キヨくん」に対して、それが真実であることを証明したいと意気込んでいる。

イ「キヨくん」に自分の趣味を真つ向から否定されていると感じ、石拾いの面白さを必ず理解させようと強く決意している。

ウ 石を鑑賞するという自分の趣味を「キヨくん」にも持ってほしいと思ひ、どのようにして魅力を伝えるべきか悩んでいる。

エ「キヨくん」から自分の趣味に関する質問を受け、好きな石の話をしていくうちにだんだんと気分が高揚しはじめている。

(5) —線④「文字を入力する指がひどく震える」とありますが、このときの「キヨくん」の心情の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分を偽らずに刺繍が趣味であることを告げた結果として、孤独の苦しさを味わうことになるかもしれないという不安を感じている。

イ 級友に自分の趣味を理解してほしいと強く願う一方で、はたして自分の気持ちを文字だけで表現できるだろうかと心配になっている。

ウ 自分を心配してくれる級友の言葉から、刺繍という趣味を理解してもらえずに自分が苦しんでいると誤解されたと思ひ動揺している。

エ 刺繍が好きだという気持ちを貫くことよりも、孤独の苦しきから逃れようとしている自分の弱さを自覚して、嘆かわしく思っている。

(6) —線⑤「そのメッセージを、何度も繰り返し読んだ」とありますが、その理由を五十字以内(句読点も字数に数えます)で書いて答えなさい。

(7) —線⑥「靴紐をきつく締め直して、歩く速度をはやめる」とありますが、これは「キヨくん」のどのような心情の変化を表していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 手芸には自信があり容易にドレスを縫えると軽く考えていたが、春の美しい情景を見て自分の甘さを思い知り、美しいドレスを作ろうとこれまで以上に気持ちを引き締めた。

イ 高校生になっても自分の趣味をばかにされるのかと周囲に不満を漏らしていたが、自分らしさを貫くためにも好きなことにだけじっくりと取り組もうと思うようになった。

ウ ドレスの製作も友達づくりも無理だとあきらめずに挑戦することが大切であり、そのためには自分自身も変わっていかねばならないのだと前向きな気持ちになった。

エ 高校に入学しても決して目立たないように振る舞ってきたものの、友人に自分の趣味を評価してもらったことで自信を取り戻し、もてはやされたいと思うようになった。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

唐もろこしの*育王山の僧二人、*布施ふせを争ひてかまびすしかりければ、アそ

の寺の長老、*大覚連和尚だいかくれんをしやう、この僧を恥はぢしめていはく、「イある俗、他

(この僧二人を戒めて)

人の銀しろがねを百兩預かりて置きたりけるに、ウかの主死して後、エその子

に是これを与ふ。子、是を取らず。『親、既に与へずして、①そこに寄せた

り。その物なるべし』といふ。かの俗、『我はただ預かりたるばかり

なり。譲り得たるにはあらず。親の物は子の物とこそなるべけれ』とて、

(子の物になるべきだ)

また返しつ。②互ひに争ひて取らず、果てには官の庁にて判断を③こふ

(公の役所)

に、『共に賢人なり』と。『いふ所当たれり。すべからく寺に寄せて、亡

者の*菩提ぼだいを助けよ』と判ず。この事、まのあたり見聞きし事なり。*世

(この話は、私が直接見聞きしたことである)

俗塵勞ぞくぢんろうの俗士(利益)、なほ利養りやうを貪むさぼらず。*割愛かつあい出家の沙門しゃもんの、世財を争は

ん』とて、法に任せて寺を追ひ出してけり。

(寺の決まりに従って追放した)

〔沙石集〕より

(注) 育王山 中国浙江省にある山。

布施 仏や僧に施す金銭や品物。

大覚連和尚 「大覚」は悟りを得た人の意。「連」は名前。

菩提 死んだ後、極楽浄土(一切の苦悩がなく平和安楽な世界)

に生まれかわること。

世俗塵勞の俗士 僧にならず、俗世間で生活する人。

割愛出家の沙門 欲望や執着を断ち切って僧になり、仏道修行をする人。

(1) 線①「そこ」とありますが、誰の何を表していますか。 線

ア 工から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア その寺の長老

イ ある俗

ウ かの主

エ その子

(2) 線②「互ひに争ひて取らず」とありますが、その理由として最も

適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 親の銀を少し譲ろうという子の親切を、銀を預かった者が拒否したため、子もすべての銀の所有権を放棄しようとしたから。

イ 子も銀を預かった者も、親の遺志が確認できないため、銀の所有権が自分にあると考え、裁判で決着をつけようとしたから。

ウ 親が預けたという行為の受け止め方が、子と銀を預かった者との間で異なるため、お互いに銀は相手のものだと考えたから。

エ 遺産を独占するのは人の道に外れる行為であるため、子も銀を預かった者も、親の銀を相手と平等に分け合いたかったから。

(3) 線③「こふ」を現代仮名遣いに直して書いて答えなさい。

(4) 次は本文をもとに話し合っている先生と生徒の会話です。それぞれの

□に入ることばを、**あ**は本文中から二字で書き抜いて答え、

い・**う**はそれぞれ十字以内(読点も字数に数えます)の現代

語で書いて答えなさい。

先生 「この話では、最終的に二人の僧が寺から追放されてしまいました。なぜ追放されたのか、考えてみましょう。」

生徒A 大覚連和尚が二人を戒めたところから、何か良くない行いをしたということだよな。

生徒B それに対して、和尚の話に出てくる「ある俗」と「子」は、「**あ**」と評価されているね。

生徒C 「僧二人」と「ある俗」たちが対比されていると考えることができそうだな。

生徒A なるほど。そう考えると、冒頭の「僧二人、布施を争ひて」というのは、二人の僧が布施を**い**と思うって争ったということか。

生徒B でも、二人は「割愛出家の沙門」のはずだよな。

生徒C そうだね。それを踏まえて考えると、僧たちが**う**点を和尚は戒めたのだね。仏道修行する人としてあるまじき態度だから、寺の決まりに従って追放されたのだろうな。

(これで問題は終わりです)